

センター試験以降のスケジュール

2018年 1/13 (土) ~1/14 (日)
大学入試センター試験実施

試験日	試験教科・科目	試験時間
1/13 (土)	地理歴史 『世界史 A』『世界史 B』 『日本史 A』『日本史 B』 『地理 A』『地理 B』	2科目選択 9:30~11:40
	公民 『現代社会』『倫理』『政治・経済』 『倫理、政治・経済』	1科目選択 10:40~11:40
	国語 『国語』	13:00~14:20
1/14 (日)	外国語 『英語』『ドイツ語』『フランス語』 『中国語』『韓国語』	【筆記】 15:10~16:30 【リスニング】 『英語』のみ 17:10~18:10
	理科① 『物理基礎』『化学基礎』 『生物基礎』『地学基礎』	9:30~10:30
1/14 (日)	数学① 『数学 I』『数学 I・A』	11:20~12:20
	数学② 『数学 II』『数学 II・B』 『工業数理基礎』『簿記・会計』 『情報関係基礎』	13:40~14:40
	理科② 『物理』『化学』 『生物』『地学』	2科目選択 15:30~17:40 1科目選択 16:40~17:40

1/13 (土) ~1/14 (日) 正解等の発表

1/15 (月) 1限 自己採点

1/17 (水) 予定 平均点等の中間発表

面談などで出願校を検討

1/22 (月) ~1/31 (水) 国公立大出願

2/1 (木) 予定 平均点等の最終発表

センター試験まであと **22日**。これからは学習面の対策も必要ですが、試験本番に向けての「**心構え**」も大切になってくる時期です。以下のポイントを押さえて、センター試験に臨みましょう。

試験当日までどう過ごす？

「明日何をするか」ではなく、試験当日から逆算しよう。センター試験直後、私大の入試が始まります。私大の入試の日程も考えた上で、新しい問題を解いて時間の感覚を確認するのか、今まで間違えた問題や知識の最終確認をしていくのか、試験前日から、自分が一番自信を持って本番に臨める気持ちづくりをしていきましょう。

試験の時間配分とできるイメージ

各教科、試験の進め方は決まっていますか？5分は残して見直しの時間、もしくは少し考えた問題に戻る時間。「始め」の合図で深呼吸。みんなが焦って問題を開く音を聞きながら、落ち着いてページをめくろう。まずは自分が解く範囲を確認し、各大問の時間配分を決めて、スタート。ラスト5分は最終確認。名前や受験番号、マークのズレ等、1点をももぎ取る気持ちで。

※あくまで例です。自分なりのイメージをしておきましょう。

自己採点を正確にするために

個別学力検査の出願は、センター試験の自己採点結果をもとに決定することになる。自己採点を正確に行うため、受験中は解答番号を問題冊子に必ず控えておこう。

1点も無駄にしないマーク記入

- わからない設問があっても、とにかくすべての設問にマークすること
- 訂正をする際には、跡が残らないよう完全に消しゴムで消すこと
- 「記入欄のズレ」などはないか、問題冊子と突き合わせて確認すること

入試に関するQ&A

いよいよ入試本番間近。とは言っても初めての入試には耳慣れない用語や疑問も多いもの。そこで、入試に関する疑問をQ&A形式で紹介するので、しっかり確認しておきましょう。

Q. 1

もし事故や病気などでセンター試験が受験できなくなったら？

A. 1

事故や病気などのアクシデントが起きた場合は、受験生本人または代理人が、速やかに「受験票」に記載されている「問い合わせ大学」に行き、申請すれば追試験を受けることができる。申請の受付時間、詳しい方法等については、受験票・写真票等と一緒に送付されている「受験上の注意」に明記されている。なお、2018年度大学入試センター試験の追試験は1月20日(土)・21日(日)(東京芸術大学)に実施予定。

Q. 2

センター試験の得点調整とは？

A. 2

センター試験終了後、大学入試センターでは、各教科で選択科目ごとに平均点を算出する。その平均点に原則として20点以上の差が生じ、それが試験問題の難易差に基づくものと認められた場合には、平均点が低い科目を受験した受験生が不利にならないよう、得点差を調整する。なお、2018年度大学入試センター試験の得点調整実施の有無の発表は1月19日(金)の予定。

Q. 3

国公立大の出願はいつ行うのか？

A. 3

国公立大の出願は1月22日(月)～1月31日(水)の間に行う(国際教養大を除く)。出願する可能性のある大学の願書は、当然それまでに取り寄せておかなければならないので、早めの準備が必要だ。

また、出願校決定には、自己採点結果が唯一の手がかりとなる。確実な出願校決定のためには正確に自己採点することが重要だ。

Q. 4

「志願倍率」、「実質倍率」の違いとは？

A. 4

ひと口に倍率といっても「志願倍率」と「実質倍率」の2種類がある。「志願倍率」とは、「志願者数÷募集人員」のことで、志願者とは実際に大学に出願した人のことだ。「志願倍率」では、その大学の人気度がわかる。一方「実質倍率」は、「受験者数÷合格者数」のことで、実際の試験での競争率がわかる数字だ。

出願はしたものの、試験当日までに第1志望校の合格が決まった受験生などは受験しない場合があり、「志願者数と受験者数が違う」といったことが起こる。また、入学辞退者を見込む大学は、募集人員よりも多めに合格者を発表するため「募集人員と合格者数が違う」ということも起こる。このように「志願倍率」と「実質倍率」では数値も意味も異なるので、単に「倍率」といった場合には、どちらの倍率を意味するのか注意が必要だ。

Q. 5

大学は何校まで出願できるか？

A. 5

国公立大一般入試(国際教養大など一部の大学を除く)の場合は、前期・中期・後期の各日程から1つずつ、最大3つの大学・学部への出願が可能だ。また、私立大などは、試験日程が重ならなければ出願に制限はない。第1志望校を中心に、うまくスケジュールを立てて出願校を考えよう。

Q. 6

「二段階選抜」とは？

A. 6

一部の国公立大で行われる選抜方法のこと。個別学力検査の前にセンター試験の成績などにより第一段階選抜が行われ、合格者のみが個別学力検査を受験することができる。志望校が二段階選抜を行うかどうか確認しておこう。

センター試験本番に向けての確認事項

【その1】学習面：センター試験までにもう一度確認しておこう

- 模試などで、あいまいだった問題・知識を確認しておこう
- 苦手だった分野、伸びしろのある科目に時間をかけよう
- センター試験の出題形式を十分分析し、慣れておこう
- 時間配分を確認し、感覚を身につけておこう
- 地歴公民、理科の受験する順番をあらかじめ決めておこう（「第一解答科目」と「高得点科目」のどちらを合否判定に利用するかは大学によって異なることがあるので要注意。大学の募集要項を確認しよう）
- 自己採点が正確にできるように練習しておこう
- 復習の時には、ケアレスミスをしなかったら何点とれたかも確認してみよう
- ここまでできたら、直前の点数に一喜一憂せず、一度確認した問題は絶対間違えない気持ちで！

【その2】生活面：今のうちから生活リズムを整えよう

- センター試験開始は9：30から。夜型から朝型へ生活習慣を切り替えよう
- 普段と違う食べ物・飲み物には注意。いつも通りの食事をしよう
- 受験勉強中に迎える年末・年始。生活リズムを崩さないように気をつけよう
- 本番までは、携帯電話・メール・漫画を控えよう。本番に向けて集中力を高めていこう

先輩からのメッセージ ～健康管理は隠れた入試科目～

- 風邪をひいてしまったせいで、失敗した。寒さ対策をしっかりとっておこう。
- 試験中の最大の敵は寝不足・寝坊だった。
- 早寝早起きなど生活リズムを作るのは大事。朝から脳がしっかりと働くようにしよう。
- 時々気分転換を心がけたのがよかった。軽いストレッチなどがおすすめ。



【その3】いよいよ本番：センター試験直前・本番で困らないように

- 当日は雨や雪が降るかもしれない。試験会場までどうやって行くのか、交通手段をチェックしておこう
- センター試験の休憩時間は意外と長い。簡単にチェックできるノートやカードを準備しよう
- 前日緊張して眠れなかったら、単語帳等を持って、決めた時間には布団に入ろう
- 当日の朝、よく眠れていなくても「ああ、よく寝た。今日は調子がいい」と声に出して言うこと！からだは言葉に左右されます。これから当日まで、マイナスのことは口にしない！
- 意外と待ち時間があります。待っている時間に何をして気持ちをつくるかも考えておこう

正確な自己採点をするために ～センター試験本番での解答の掟～

- 試験開始前に、見直しの時間も計算に入れて時間配分をすること
- 受験番号や名前などの記入に誤りがないかどうか確認すること
- マークの「ダブリ」や記入欄の「ズレ」などがいないか確認すること
- 受験中に自分の解答を問題冊子に必ず控えること
- マークシート上で訂正した場合、問題冊子の控えにも訂正を反映させること
- 訂正の際は完全に消しゴムで消すこと
- 問題冊子の控えとマークシートの解答とが一致しているかを最後に見直すこと



